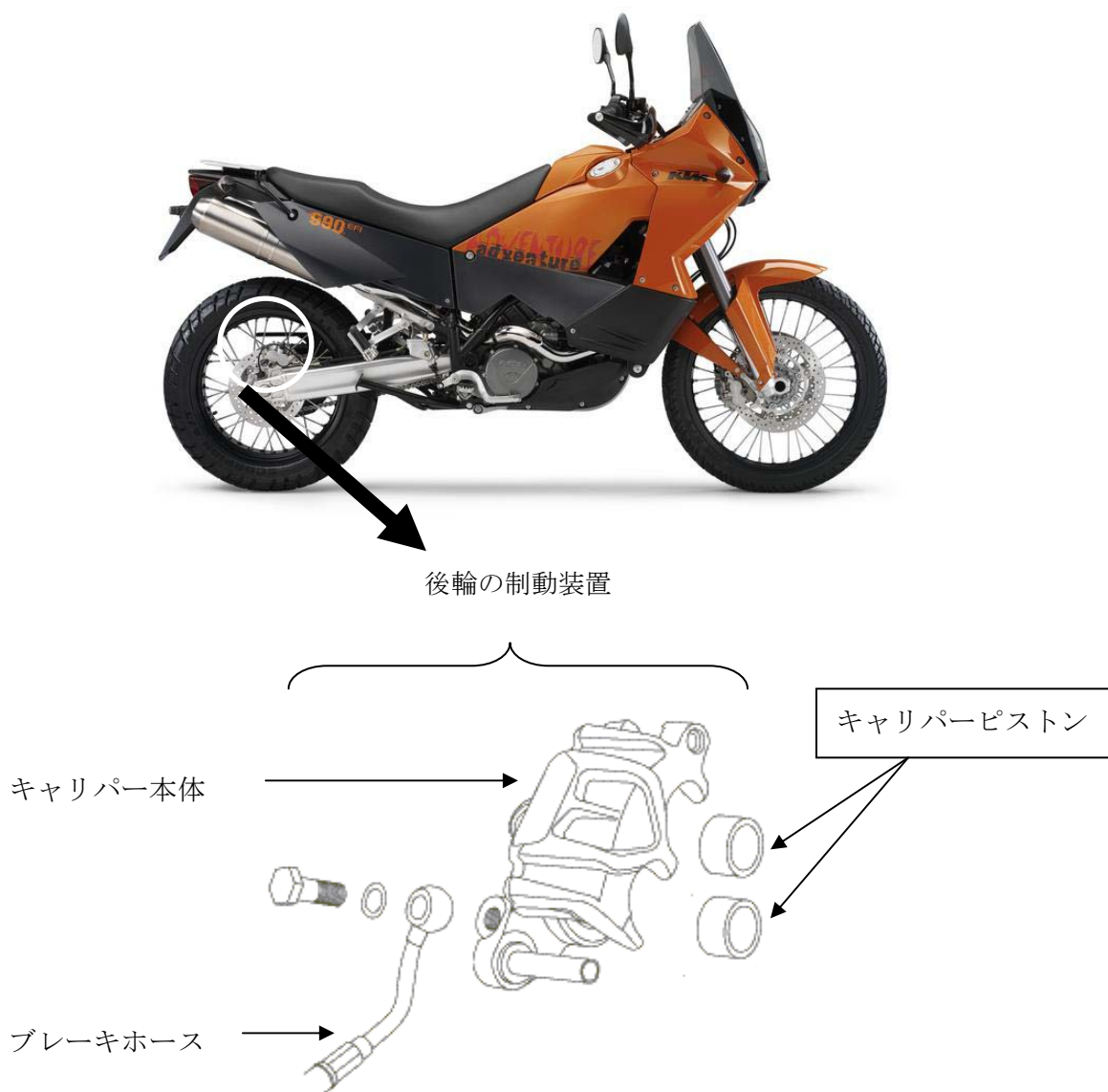


改善箇所説明図①



基準不適合発生箇所

後輪の制動装置において、キャリパーピストンの遮熱構造が不適切なため、制動時の発生する熱でブレーキオイルが高温になることがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、ブレーキオイルが沸騰し、最悪の場合、ベーパーロックが発生し、制動力が不足するおそれがある。

改善の内容：

全車両、後輪のキャリパーピストンを対策品と交換する。

注： は交換部品を示す。

改善箇所説明図②



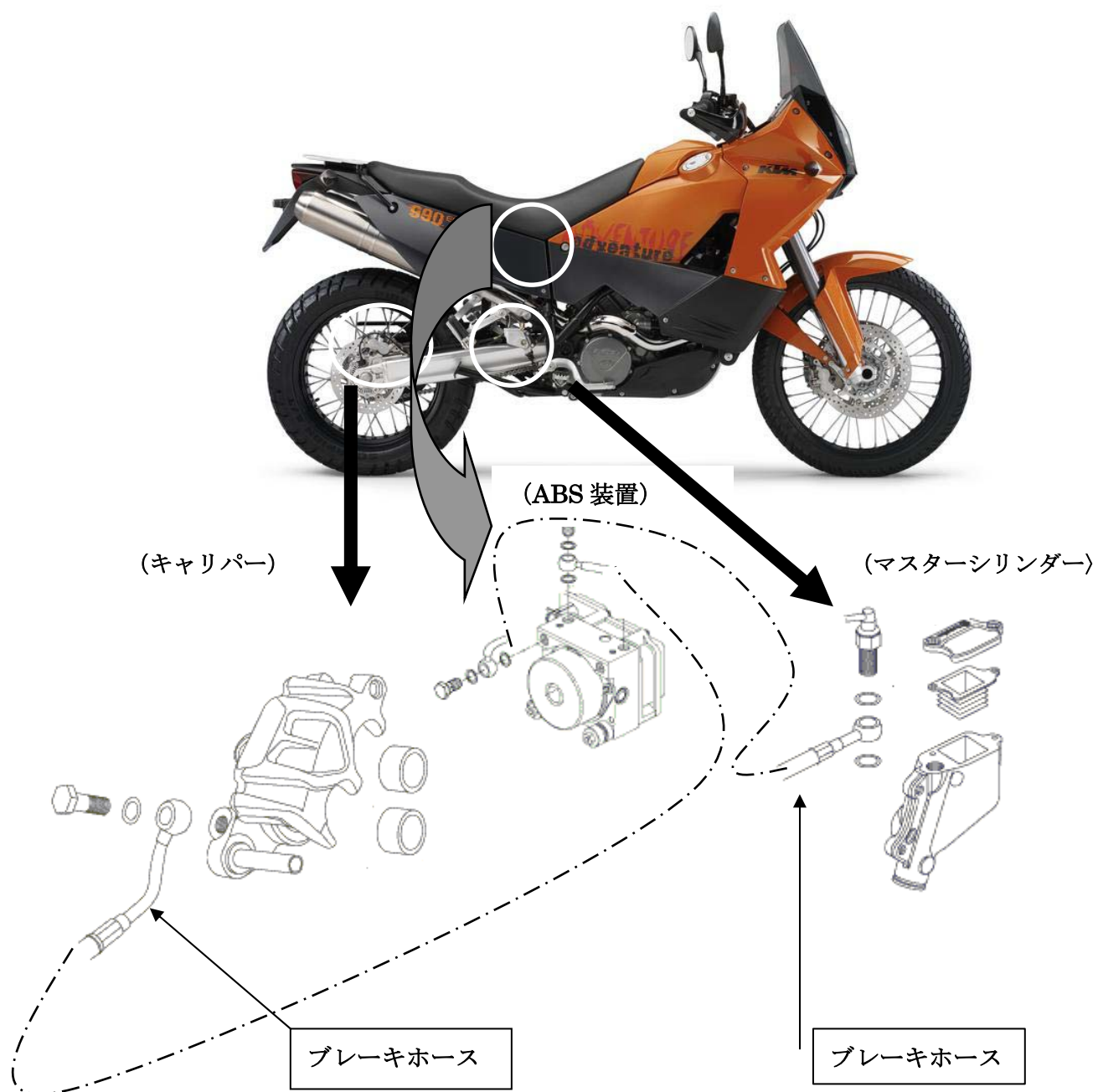
基準不適合発生箇所

後輪の制動装置において、マスターシリンダーの油路及びインナーカバーの構造が不適切なため、インナーカバーとブレーキオイルの間に気泡が残っているものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、リザーバタンクの液量が減ったときにその気泡がオイルラインに混入し、最悪の場合、制動力が不足するものがある。

改善の内容：全車両、車両のモデル番号を確認し、後輪のマスターシリンダー一式又はインナーカバーを対策品と交換する。

注： は交換部品を示す。

改善箇所説明図③



基準不適合発生箇所

後輪の制動装置において、ブレーキホースの取り回しが悪いため、エンジンの振動によりブレーキホースが共振し、ブレーキオイルに気泡が発生しやすくなるものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、気泡が増加し、最悪の場合、制動力が不足するおそれがある。

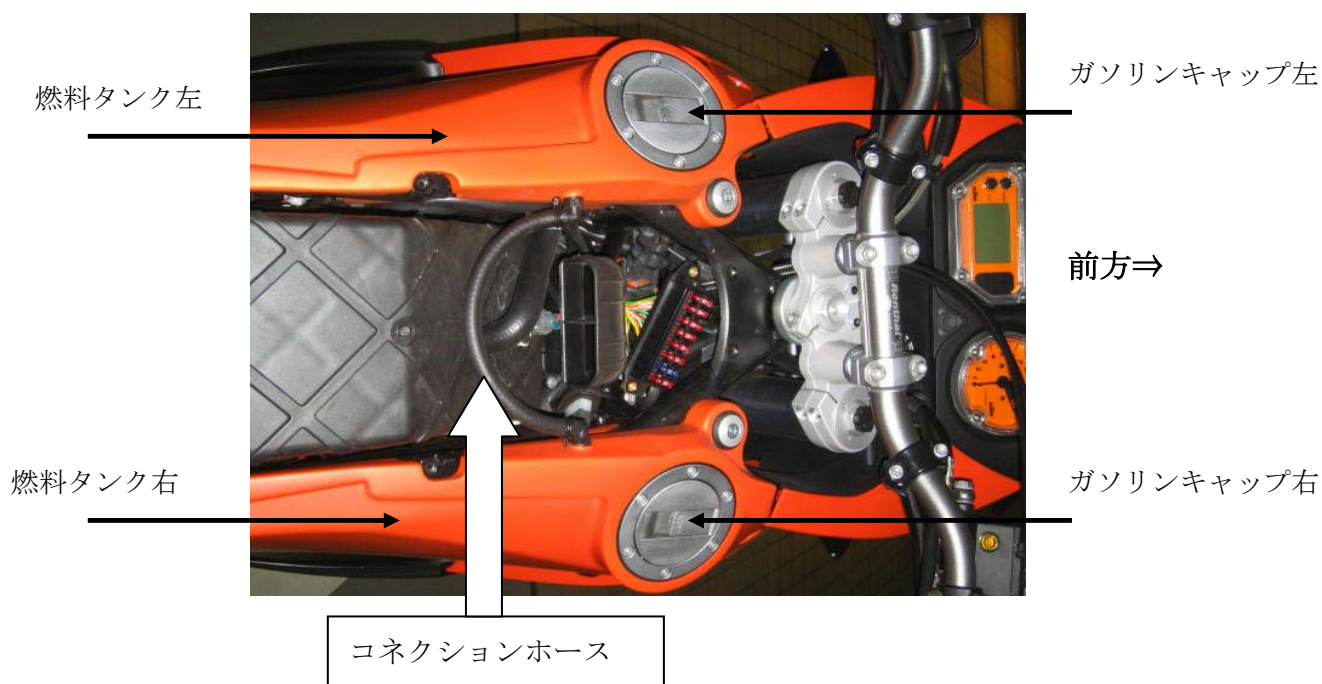
改善の内容：全車両、後輪のブレーキホースを対策品と交換する。

注： は交換部品を示す。

改善箇所説明図④



車両上からの図



基準不適合発生箇所

燃料タンクの構造が不適切なため、左右の内圧が均一でなくなるものがある。そのため、そのまま使用を続けると、燃料供給が適切に行われず、エンジンが停止し、再始動できないおそれがある。また、燃料タンクの内圧が異常に上昇した場合、ガソリンキャップを開けると突然ガソリンが噴出し、最悪の場合、火災に至るおそれがある。

改善の内容: 全車両、燃料タンクに左右の内圧を均等にするためのコネクションホースを取り付ける。

注: は新規取付部品を示す。